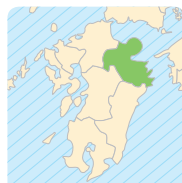


取材日：2014年8月25日



糖尿病



大分県

# LCDEの自律を促し地域の課題を克服する 大分県の糖尿病対策。

## Point of View

- ① 地域で活躍できる人材育成をめざした地域糖尿病療養指導士(以下、LCDE)認定制度
- ② LCDEの自律を強かに促す研修プログラムと地域活動への参加
- ③ LCDEの主体的な活動で医療と介護・福祉の橋渡しを担う出前講座

医療法人社団信成会内科阿部医院院長  
大分県糖尿病療養指導士認定委員会顧問

阿部 信行先生

大分大学医学部看護学科実践看護学講座教授  
大分県糖尿病療養指導士認定委員会会長

濱口 和之先生

大分大学医学部看護学科実践看護学講座准教授  
大分県糖尿病療養指導士会(大分LCDE)会長

脇 幸子氏

医療法人社団信成会内科阿部医院看護師  
大分県糖尿病療養指導士会(大分LCDE)顧問

渡辺 鈴子氏

大分内分泌糖尿病内科クリニック管理栄養士  
大分県糖尿病療養指導士会(大分LCDE)顧問

石橋 幸子氏

## 全国に先駆けて開始した LCDE認定事業

1998年11月、大分県糖尿病協会では、大分県糖尿病療養指導士認定委員会を発足させ、翌年3月より認定に向けた研修会を開始、11月に第1回認定試験を行って63名のLCDEを認定した。その後、毎年50名前後のLCDEを認定し、2014年現在508名のLCDEが地域で活躍している。

「大分県では1987年に『大分糖尿病イベント』を立ち上げ、現在まで151回の学術講演会を開催、早期から医師とメディカルスタッフがともに糖尿病の専門知識を学ぶ機会を継続してきました。そんな中、LCDE認定に向けて動き出したのは1996年、宮

崎県の平和台病院で診療されていた杉山悟先生から、糖尿病診療にたずさわるメディカルスタッフを対象に出前形式の勉強会を実施されていることをお聞きしたのがきっかけとなりました。当時、大分大学で勤務されていた桶田俊光先生(現在は赤坂おけだ内科クリニック院長)と相談し、大分県内7ヵ所で研修会『大分糖尿病セミナー』を毎年実施する取り組みを始めたのです。

研修会には、医師、看護師、栄養士、薬剤師など多職種が参加し、質の高い糖尿病療養指導をめざして研鑽を積み、LCDE認定の機運が高まってきました(阿部先生)

糖尿病療養指導士の制度は1986年に米国で始まり、日本では1990年代

後半ごろから検討されるようになった。九州では1997年に福岡県と佐賀県の一部でLCDEの認定を開始した。「大分県では桶田先生を中心に制度の骨子をつくり込み、1998年に認定を開始しました。日本糖尿病療養指導士(CDEJ)の認定がスタートしたのが2001年3月ですので、大分県の取り組みは全国に先駆けたものとなりました。この取り組みは他の地域が始めたのを追従したのではなく、県内の糖尿病診療の質向上のために自ら行動しようという強い意志が結束し、大きなエネルギーとなって認定が開始されたところに、現在まで続くこの活動のヒントがあるように思われます」(濱口先生)

大分県でのLCDE認定制度開始当

時、認定委員会の役割者は医師が15名、看護師が10名、管理栄養士が8名の構成で、多職種による制度運営がなされた。認定委員会発足時に副会長を務めた石橋氏、渡辺氏は当時を振り返る。

「認定制度開始前の1994年、桶田先生に指導を仰ぎ、医療分野の栄養士が集まって糖尿病勉強会を開始しました。この会は毎年6回開催し、当初の参加者は40名程でしたが、次第に県内全域から熱心な参加者が集まるようになり、100名規模にまで拡大しました。そこで学んだ有志が、阿部先生らが始めた大分糖尿病セミナーに参加するようになり、栄養士だけでなく多くの職種とともに学びながら刺激を受けて、LCDE認定に挑戦することとなりました」(石橋氏)

「私たちは長年にわたり職域の壁を越えて協力し、理想の糖尿病医療をめざして努力してきました。認定制度は、『日本一の糖尿病療養指導を実現する』という熱い思いで立ち上げました」(渡辺氏)

### 実践的な研修と地域活動がLCDEの自律を促進

大分県において、LCDEは看護師、栄養士、薬剤師、保健師、臨床検査技師などの医療スタッフを対象とし、丸1日かかる研修を7回受講して試験に合格した者が認定される。1コマでも受講を欠席すると受験資格はなくなる。認定の更新には、認定委員会が規定する糖尿病関連学会や講演会に参加し、5年間で25単位を取得することと、大分県糖尿病協会の関連行事に3回以上参加することが必要となる。

また、2000年1月には、認定されたLCDEによる大分県糖尿病療養指導士会（以下、大分LCDE）が発足

し、初代会長に渡辺氏が就任。2014年に脇氏が会長を引き継いだ。

「糖尿病の病態や、治療などの専門的な知識を修得することは非常に重要ですが、地域の糖尿病対策を成功させるには、それだけでは十分ではありません。広く地域の課題に目を向け予防や市民啓発に取り組む人材を育成するために、LCDE認定研修には、これら地域の課題を踏まえたグループワークを組み込むなど、実践的なプログラムを構築しました。

受講者にとって、多忙な業務の中で7回すべての研修に参加するのは容易ではなく、過酷な状況で地域の課題に向き合うことで受講者同士のきずなが深まります。そして、晴れて認定を受けた後は、強い結束をもって地域活動に参加する流れができるのです。LCDE認定者向けの研修も年3回開催していますが、ここでも地域の課題を議論するプログラムをとり入れています」(脇氏)

LCDEが参加する地域活動の核となるのが世界糖尿病デーに合わせた街頭活動だ。ショッピングセンター等の人が多く集まる場所で血糖や血

圧の測定を行い、医師による健康相談に応じる。

「街頭活動で触れ合う市民の中には初めて血糖を測定する方や、初めて健康相談を受ける方が多く、これがきっかけで糖尿病が見つかる方もいらっしゃいます。私たちは常日ごろ、医療機関で多くの患者さんと接していますが、一般の市民の方といっしょに糖尿病の予防について考える機会はそれほど多くありませんので、街頭活動は貴重な経験となります。市民の意識や心理を知ることは糖尿病予防のためにLCDEができることを探る糸口になるのです」(石橋氏)

「LCDEの中には、努力して認定を取得しても十分に専門性を発揮する機会が与えられない者もいます。しかし、地域活動に貢献し、さまざまな職場でがんばっているLCDEと接することで、互いのモチベーションを高め合えるのです」(渡辺氏)

### 介護・福祉分野での対策に切り込む糖尿病の出前講座

LCDEの認定が開始されたことで



後列左から渡辺氏、石橋氏、脇氏、前列左から濱口先生、阿部先生

地域としての糖尿病対策が活性化され、LCDEは地域の課題に果敢に取り組む自律した専門職集団へと成長した。

「LCDEは糖尿病療養指導のプロでありながら、一方で、高度な医療専門職の集団でもあります。彼らが地域の課題を理解し自ら行動を起こせるようになったことに、LCDE認定の大きな価値があるのです。最近、行政主導の疾病啓発事業は、医師だけでなく、LCDEにも相談がくるようになりました」(阿部先生)

そんな中、大分LCDEは新たな取り組みを開始した。LCDEが、介護・福祉施設に出向き、介護福祉士やケアマネジャーらを対象に、糖尿病患者への対応に必要な知識をレクチャーする「出前講座」を2003年11月にスタートさせた(【資料】)。

「この取り組みを開始したのは、介護施設に入所する全盲の患者さんに対応したのがきっかけでした。この患者さんはインスリンが投与されていましたが、付き添われていた介護福祉士の方はインスリンの注射器を見たことがなく、インスリンの単位の見方もわかりません。これはまずいと思い、LCDEとして支援できることを考え、この患者さんが入所している介護施設に出向いて、スタッフを対象に糖尿病の講義させていただきました」(渡辺氏)

これを機に渡辺氏は大分LCDEにワーキンググループを設置し、一方で介護分野の職能団体とも連携して活動を拡大。現在までに41回の出前講座を開催し、多くのLCDEがこの取り組みに参加した。

「大分LCDEは地域の課題を広くとらえて研修や活動を展開していますので、皆が問題意識を持って即座に行動することができました。また、LCDEの中には、保健所で勤務する

【資料】

### 出前講座の様子

#### 老健施設での出前講義



LCDEが  
講義担当…

同じスライドを  
使用するので  
内容は統一

障子に白いシートを  
かけてスクリーンに代用する

#### 注入器の使用



インスリン注入器  
SMBGの体験は  
とても関心が大きい!



実際に  
注射針をさして  
痛みを体験する人も!  
……アレ、痛くない!

#### 調理実習



保健師、栄養士、介護分野で活躍する看護師、保険薬局の薬剤師、保健師などいますので、密に連携して活動しました。出前講座の目的は、介護スタッフが糖尿病患者の身のま

わりのお世話をするのに必要な知識を修得し、安心してサポートしていただくことにあります。高度な知識を啓発するものではありませんので、医師に多くを依存することなく、

LCDEとして主体的に取り組みました」(脇氏)

「LCDEの中には、人前で講義するのが初めての者もいましたので、皆で協力して資料をつくり、いっしょに練習するなどして、多くの会員が参加できるようにしました。出前講座も街頭活動と同様、LCDEが主体的に行動するきっかけになり、会員のモチベーション向上につながりました」(石橋氏)

「出前講座は、LCDEの自律を象徴する活動と言えるでしょう。LCDEの認定が単に個人の専門性向上や資格取得にとどまるのではなく、医師の指示を待たず、自ら地域の課題に主体的に取り組むことにつながっており、全国的にも稀有な成功事例と言えるでしょう」(濱口先生)

「近年、糖尿病患者の高齢化が進み、介護分野での糖尿病管理が大きな課題になりつつあります。インスリン投与患者の受け入れに難色を示す介護施設もあるかもしれません。そうした中、LCDEが主体的に活動し、医療と介護・福祉の橋渡しになることは、きわめて価値のある活動と言えます」(阿部先生)

## 糖尿病対策から顕在化した地域における課題

LCDEが主体的に活動してきたことで、医療に関する地域の課題が明確になりつつある。糖尿病対策と他の疾病対策との連携や、専門医とかかりつけ医との連携のあり方が課題として顕在化してきた。

「糖尿病患者の多くは他の生活習慣病を合併し、がんの発症率も高いと指摘されています。また、高齢化により認知症や介護の問題を抱えた患者さんをどのようにケアするかが切実な課題になりつつあります。

一方、行政主導の疾病対策は糖尿病、高血圧、CKD、肝疾患、認知症、がんなど、疾病ごとに個別に対策が打たれていて、横の連携が十分とは言えません」(渡辺氏)

「私たちは、がんのリレー・フォー・ライフに参加するなどの活動はしていますが、疾患の枠を越えた連携の取り組みは限定的です。各疾患の対策責任者が包括的な疾患対策を協議する場を持つなど、より踏み込んだ連携が必要と感じます。

また、疾病対策を成功させるには、患者さんの参加を促すことも重要です。現在、大分県糖尿病協会の会員で医療関係者以外の市民の方は190名程にとどまります。今後は疾病対策への市民参加を活性化し、患者団体同士が交流するような機会をつくることも必要でしょう」(脇氏)

「行政も含めて、これまでの糖尿病対策は、合併症予防の重要性を謳ってはいても、HbA1cが下がったかどうか偏重していたきらいがありました。今後は高齢者が増えることもあり、HbA1cそのものではなく認知症やその他の合併症を持つ糖尿病の患者さんの個別ケアを意識しながら、何を目標にするかといった点で発想の転換が必要だと思います。また、大分県では専門医とLCDEで強固な信頼関係を構築してきましたが、一方で、専門医とかかりつけ医との連携が成熟していません。そこで、近年は行政とも連携し、地域医療連携の推進を模索しています」(濱口先生)

「当医院には、遠方から受診する患者さんがたくさんいらっしゃいますが、ご高齢で大分市内まで受診するのが困難になりつつある方が散見されます。これらの患者さんに、地元で安心して治療を受けていただける連携体制を早期に構築する必要があります」(阿部先生)

また、LCDE認定者が増え、組織が大きくなったことに対しても対応が必要だ。

「500名を超えるLCDE認定者が同じ目標と志を共有し、質を維持し、いかにして活動を活性化していけるかが今後の課題となります」(脇氏)

最後に、大分県のLCDE認定がもたらした地域力と将来の発展について阿部先生にうかがった。

「15年前、日本一の糖尿病療養指導を実現しようと熱い思いを結集してLCDE認定を開始しました。結果、積極的な地域活動を通じて、自律した有能な人財を多く輩出し、医療や介護にまつわる地域の課題に果敢に取り組む、全国でも稀有な専門職集団に成長しました。しかし、人口の高齢化は切実な問題であり、LCDEによるボランティアな活動ですべてを支えるには限界があるでしょう。

今後はLCDEが大分県公認の認定資格となり、行政と一体となって、発展的に活動していけることを願っています」(阿部先生)

### 医療法人社団信成会 内科阿部医院

〒870-0039  
大分県大分市中春日町16-13  
TEL : 097-538-1633

### 大分大学医学部看護学科 実践看護学講座

〒879-5593  
大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1  
TEL : 097-549-4411

### 大分内分泌糖尿病内科クリニック

〒870-0831  
大分県大分市要町9-19  
TEL : 097-574-7070